

アウトソーシーが感じている大学のキャリアサポートの課題

GAKKEN 就職対策講師 宗村 義隆

伝えたいこと：実際に進路指導に関わる人たちが、キャリア教育のプロになることが求められているのではないかと。そのために、どんなコラボレートが・どうしたら可能なのかをいっしょに考えたい

A 就職支援現場が抱えている課題

- 1 就職課からキャリアサポートセンターへ
→何が変わったのかがよく分からない
- 2 外部支援事業の守備範囲
→補助機能と「丸投げ」 クライアントは就職課。では、学生は何？
- 3 就職対策講座が目指すもの
→ワークショップ+チュートリアル＝基本視座×就活実践力
- 4 最近の各界の改革方針といくつかの取り組み
 - ①政府の取り組み
→若者自立・挑戦プラン(平成 14 年からの 3 カ年計画 2 年で 1000 億円超)
→YES-プログラム(若年者就職基礎能力=employ ability の 5 つの要素)
 - ②日本経団連の二つの提言とシンポジウム「変革する大学 その将来像」
→次世代を担う「競争的な環境のなかで切磋琢磨する、優位な人材輩出」
→「制度・経営を社会の要請に合わせて再構築しよう」
 - ③私大連の構想
→キャリア形成支援(職業的未来の形成促進+スムーズな社会への移行)の必要性
 - ④個別大学での取り組み
教科目的な「キャリア教育」プラン
法政大学キャリアデザイン学部の設立
 - ⑤インターンシップ制の普及 「産学・地学」協同の取り組み
→大企業独自の取り組み、人材派遣業界等のビジネスフィールド

<中括>

- いまどきの就活対策アウトソーシングと外部講師の任務
- 学生との共同作業で大切だと感じたこと
- どのようなコラボレートが・どうしたらできるのか

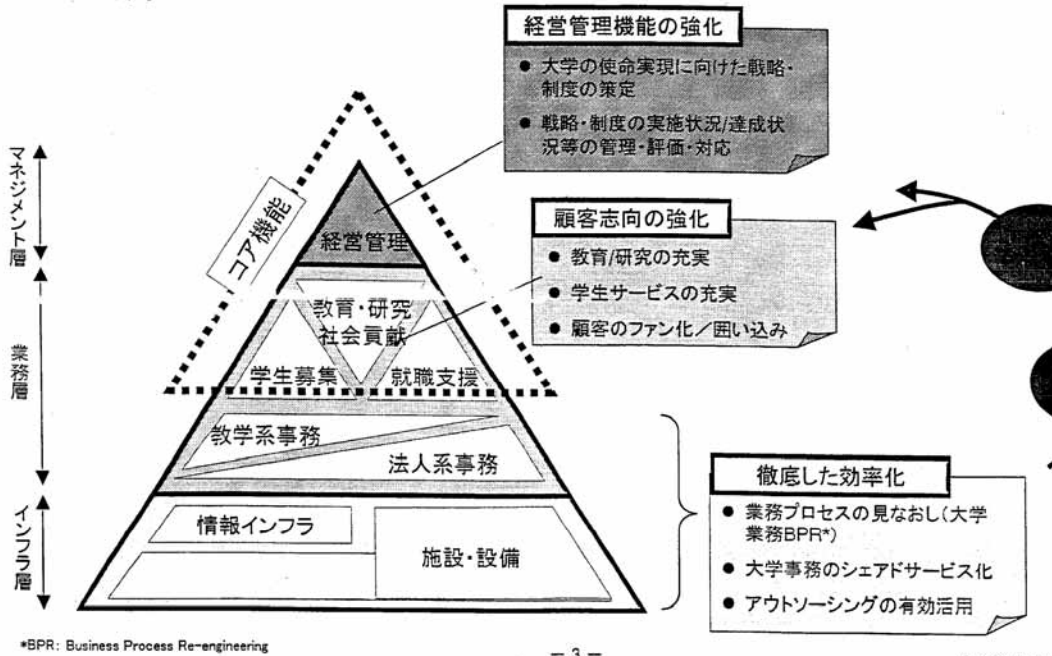
B 実践的な課題を明示するために検討しなければならないと感じている領域

- 1 学問としてのキャリア教育論
どのように活用したらキャリア形成支援に役立てることができるのか
学問と実践的領域のアンビバレンス(両価性)を解題することは可能なのか
JIL のセミナーに参加するようになって感じたこと
- 2 大学の教育機関としての「金属疲労」と就職指導・対策分野の課題
「本音と建前」の堂々巡りから脱け出すために求められていることは？
- 3 秋の学会シンポジウムまでの深めたいこと
愛知みずほ大学伊藤彰茂先生にお願いします

資料

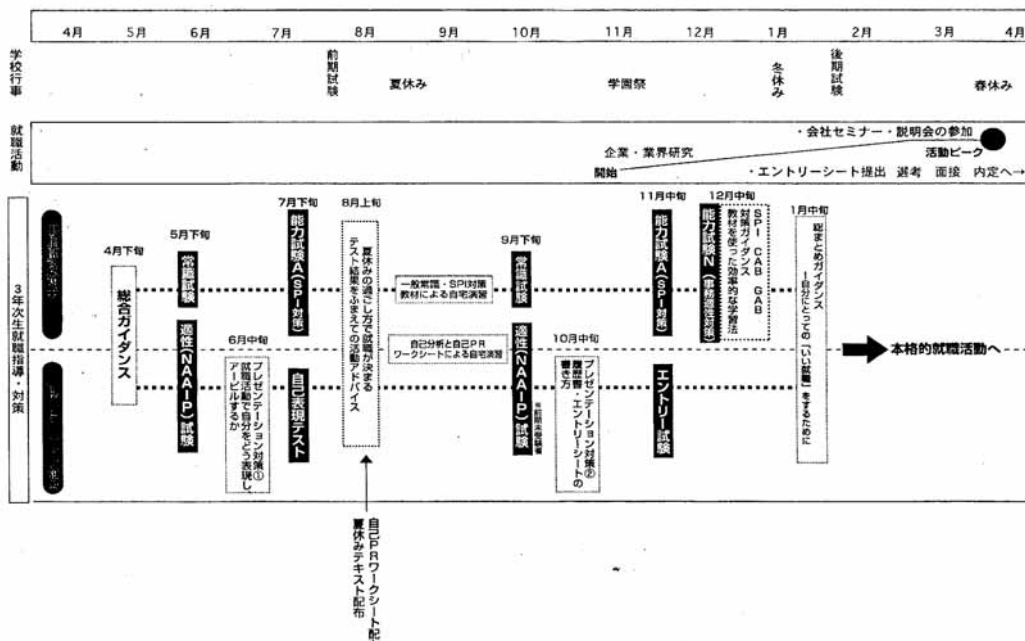
①04 年「大学改革セミナー ～新しい大学を目指して」の問題提起

大学におけるコア機能を明確に識別し、同機能への資源の重点投資を徹底する事が、我々の考える大学改革のコンセプトです。



②学研メディコンの「就職支援プログラム」(05 年実施例)

大 就職活動支援プログラム スケジュール (案)



N.B.→クライアントニーズが講座中心の場合